

川崎市幸区 PTA 協議会による親子自転車交通安全教室について
“The bicycle safety class which produced by Parent-Teacher Association council
of Kawasaki-city Saiwai ward

村山 吾郎 Murayama Goro

1. 自転車による交通事故の高額賠償事例：【神戸地方裁判所 2013 年 7 月 4 日判決】

小学生が乗った自転車にはねられて植物状態になったとして、被害女性(67 歳)の家族と保険会社が児童の母親(40 歳)に対し、合計約 1 億 600 万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、神戸地方裁判所の田中智子裁判官は 2013 年 7 月 4 日、児童の母親に合計約 9,500 万円を支払うよう命じた判決は、多くの人々に衝撃を与えた。

判決によると、事故は 2008 年 9 月、神戸市北区で発生。時速 20～30km で坂を下っていた小学 5 年生の男子児童(当時 11 歳)の自転車と、散歩中の原告女性が衝突。女性ははね飛ばされて頭を打ち、意識不明の重体となった。

田中裁判官は事故当時、男子児童がヘルメットを着用していなかったことなどから『(母親が)十分な指導や注意をしていたとはいえず、監督義務を果たしていなかったのは明らか』として保護者の責任を認めた。

交通事故に詳しい高山俊吉弁護士(東京弁護士会)は、『被害が重大だと自転車事故でも高額な支払いが求められるケースが増えている。自転車事故自体が増える中、裁判所も過失を厳しく捉える傾向にあり、判決は保護者の監督責任を厳しくみたのだろう』と話している。

※引用出典『神戸新聞 NEXT』(2013 年 7 月 5 日付)より、文末等、一部筆者加筆。

この大変痛ましい事故は、被害者の女性やご家族の苦しみはもちろん、はからずも加害者になってしまった児童とその保護者である母親にも、莫大な損害賠償責任や道義的責任という非常に重い苦しみをもたらしてしまった。

このような悲劇を繰り返さぬために、自転車による交通事故の被害者にも加害者にもならないためにも、事前の予防策としての交通安全教育と、いざという時に対処するための備えの両輪が大切である。

これまで当センターのレポートでは、自転車利用の負の側面である交通事故が 1 件でも減ることを願って、体験教育・道路環境の現状や改善の方向性・自転車の保険制度等について考察してきた。

本稿では、児童の保護者が積極的に自転車交通安全教育に関わっている事例の 1 つとして、川崎市幸区 PTA 協議会による親子自転車交通安全教室をご紹介します。

2. 保護者の提唱による親子自転車交通安全教室の開催事例

川崎市幸区は、神奈川県内における「自転車交通事故多発地域」(4 市 11 区 2 町)に指定されており、自転車による幸区内の平成 24 年全交通事故に占める自転車事故発生件数の割合は、県内ワースト 3 位である。平成 23 年中には 2 名、24 年中にも 1 名が自転車による交通事故で亡くなっている。

こうした幸区の状況を改善するべく、川崎市幸区 PTA 協議会では 5 年前から、神奈川県警察幸警察署・川崎市幸区交通安全対策協議会・川崎市幸区区役所危機管理担当から講師を招き、毎年 1 回 7 月に、区内の小学校の校庭で『親子自転車交通安全教室』を開催している。

子供達を自転車による交通事故から守るため、地域の保護者と小学校・行政・警察・自転車販売店がタッグを組んで行う良き実践の事例として、詳しくご紹介したい。

平成25年7月13日(土)

平成25年度 第5回 幸区PTA協議会 親子自転車交通安全教室

1、主催者挨拶

- ・ 幸区PTA協議会

2、紹 介

- ・ 幸警察署 交通課 課 長
- ・ 幸警察署 交通課 総務係長
- ・ 幸警察署 交通課 巡査長
- ・ 幸警察署 交通課 白バイ隊 巡査部長
- ・ 幸警察署スクールサポーター
- ・ 一般財団法人 日本自転車普及協会 事務局次長
- ・ 一般財団法人 日本自転車普及協会 自転車文化センター 運営課長
- ・ 神奈川県自転車商協同組合幸支部
- ・ 川崎市交通安全協会交通安全指導員
- ・ 幸区役所危機管理担当

3、自転車実技

内輪差実験
自転車基本コース
交差点見通し
車からの死角

4、講 話

- ・ 幸区内の事故と自転車事故の割合と傾向 幸警察署 交通課課長
- ・ 事故防止対策 幸警察署 巡査長
- ・ 安全な自転車ライフと自転車交通ルール 自転車文化センター運営課長 村山 吾郎
自転車普及協会事務局次長 大島 武巳

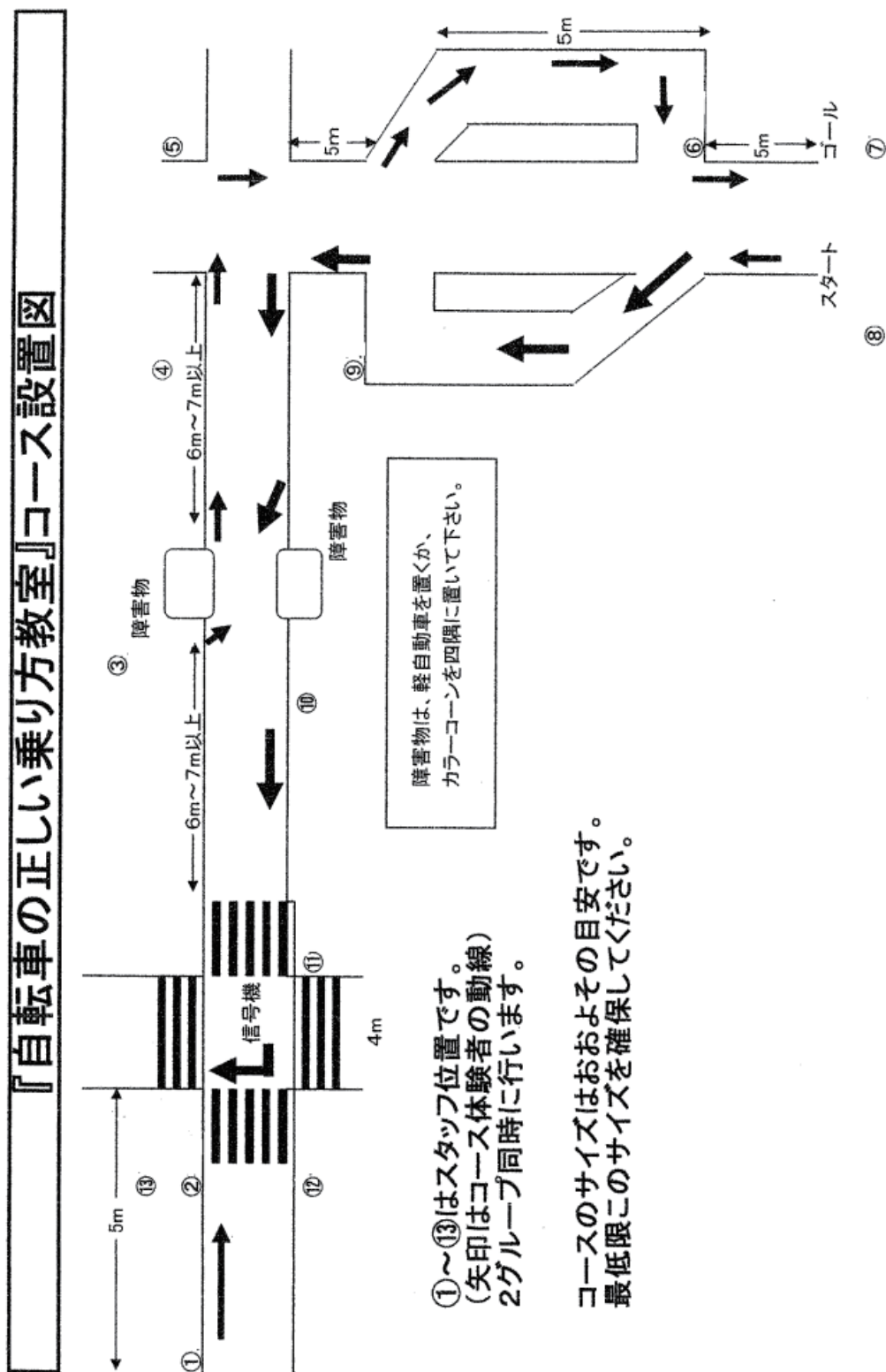
5、閉 会

平成25年度幸区PTA協議会 第5回 親子交通安全教室 タイムスケジュール		
	内容	備 考
7:00	区P役員集合	
	区P統括	
	幸区役所危機管理担当	
	幸警察署交通課	
7:30	総務委員会集合	
	成人委員会集合	
	全体準備総括	
	校庭・	ラインひき・カラーコーン
		ホワイトボード・見通し実験用椅子
		机・ハンドマイク・
	周辺誘導	
	体育館準備	スクリーン・プロジェクター・マイク
		(ワイヤレスマイク)パソコン
	来賓・講師接待	
9:00	白バイ到着・誘導	エンジン冷却
	自転車駐輪誘導	
9:20	周辺道路安全誘導	
9:30	トラック到着・誘導	死角体験車両2t車2台
	受付開始	
	白バイ体験乗車開始	
	自転車点検開始	
10:00	交通安全教室開始	
	司会	
	主催者代表挨拶	ピロティーにて開始
10:05	自転車基本コース	
	自転車点検	
	交差点見通し実験	
	トラック死角体験	
	白バイ乗車体験補助	
11:05	内輪差実験	
11:10	自転車基本コース終了	トラック帰社
	体育館に移動・誘導	
11:20	講話	幸警察署 幸区内の事故状況
11:35	講話	村山吾郎 自転車のルールとマナー
12:15	閉会(閉会のことば)	体育館にて終了
12:20	周辺道路安全誘導	
12:30	自転車点検終了	
12:40	片付け	
13:00	反省会・昼食	

このたび平成 25 年 7 月 13 日(土)の教室開催を迎えるにあたり、同協議会・齋藤茂氏より、筆者が座学講習会講師の依頼を受け、当日 40 分間ほどお話しさせて頂いた次第である。

教室当日、筆者が朝 7 時 30 分に会場の川崎市立日吉小学校に到着した際、すでに 15 名近くの PTA の保護者の方々が集っておられ、校庭の実技コースの白線はほぼ引き終わっていた。実技講習の様子は、下記のコース図と写真でご覧頂きたい。

【実技コース図】※引用出典：川崎市幸区 PTA 協議会「第 5 回親子自転車交通安全教室」資料より



＜写真①：日吉小学校校庭での実技講習準備。コースの各ポイントでの指導内容を PTA 保護者が確認。＞



＜写真②：実技講習準備風景＞



＜写真③：実技講習準備風景・スタート地点＞



＜写真⑤：実技講習準備・スタート地点で、児童に教える内容の確認＞



＜写真⑦：実技講習準備・見通しの悪い交差点で児童に教える内容の確認＞

＜写真④：実技講習準備風景・一時停止地点＞



＜写真⑥：実技講習準備・見通しの悪い一時停止交差点で、児童に教える内容の確認＞



＜写真⑧：神奈川県警察幸警察署・白バイ隊員の皆さんが到着。＞



＜写真⑨：教室開会の挨拶の後、実技講習に参加するために自分の自転車を取りに行く児童たち＞



＜写真⑩：神奈川県警幸警察署交通課の警察官より、左折する自動車の巻き込みの危険性について説明＞



＜写真⑪：警察官より、軽自動車とダミー人形を用い、左折時の内輪差で巻き込みの危険を実演＞



＜写真⑫：巻き込み実演見学後、児童たちは実技講習のため自転車に乗車。保護者はポイントに配置＞



＜写真⑬：実技講習スタート地点に並ぶ児童たち。自分のヘルメットが無い子には、貸出を行う。＞



＜写真⑭：スタート地点に並ぶ児童たち。ヘルメットの着用状態と自転車の状態を確認。＞



＜写真⑮：スタート地点。スクールガードリーダー（緑）と PTA 保護者（ピンク）から注意点を聞く児童＞



＜写真⑯：スタート地点。順番待ちの児童＞



＜写真⑰：見通しの悪い一時停止の交差点。PTA 保護者から停止線できちんと止まる指導を受ける＞



＜写真⑱：同じ一時停止の交差点。止まった後、少し前に乗り出し、右方向の安全確認を指導。＞



＜写真⑲：歩道の無い車道を走る際、路肩の障害物で前方が見えない場合の安全確認を指導。＞



＜写真⑳：歩道の無い車道で、路上駐車車をよける場合、必ず車の後ろで止まり後方と前方の安全確認＞



＜写真 21：交差点を通る際、信号の確認に加え、歩行者・左折・右折する車にも注意するよう指導＞



＜写真 22：交差点では対角線の相手の確認も含め、交互に通行。奥は歩道の無い道路。＞



＜写真 23：交差点では、正しい左側通行に加え、間違いである右側通行の危険についても指導＞



＜写真 24：停止線から発進する際、右後方の安全確認をすることを指導される児童たち＞



＜写真 25・26：実技講習の合間に、白バイ隊員の皆さんに記念撮影をさせてもらう児童と保護者＞



＜写真 27・28：神奈川県自転車商協同組合幸支部の皆さんが、実技講習の合間に無料自転車点検を行う。＞

【チリリンカード】※引用出典：川崎市幸区 PTA 協議会「第 5 回親子自転車交通安全教室」資料より

チリリンカード協賛店

「チリカ」は、特典が付いた講習受講済証です。一年間有効で、「チリカちゃんマーク」が表示されている協賛自転車店にチリカを持っていくと、転車安全整備士の点検が無料になります。TSマーク貼付、修理代や部品代が必要な場合は、実費がかかります。

タバタサイクル

(有)中沢サイクル商会

☆ 山田モータース

☆ (有)斉木自転車店

☆ (有)山崎サイクル

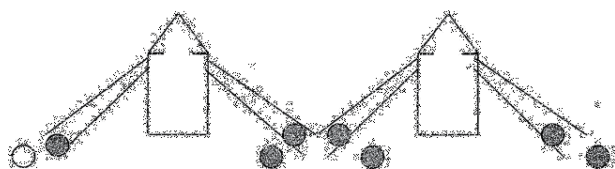
☆ サトウサイクル



☆印は、本日点検にお越しいただいている自転車店です。

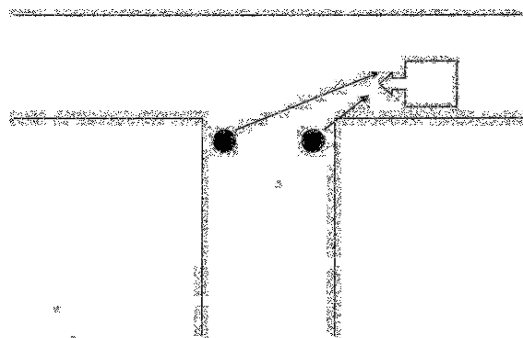
死角実験

● 死角部分に黒丸を置いて、
● 車両の死角に黒丸を置いて説明をする。
● 運転席で運転させ、自転車の見え方（死角部分）を確認させる。



見通し実験

● 月丸と見通し実験の図（見通し実験）を確認させることにより、なぜ左側走行
● しても見通し実験の図（見通し実験）を確認させることにより、なぜ左側走行



＜写真 29：死角実験のトラック。児童・保護者が実際に運転席に乗り、赤いセーフティーコーンが死角になることを体験。※見通し実験は、実技講習コース内で実施。＞



＜写真 30：同小学校体育館にて、幸警察署交通課警察官と、筆者による座学講習を実施。炎天下の実技講習後にも関わらず、熱心に聴いて下さった。＞

3. 結びとして

本教室をお手伝いして、子供たちを守るため、保護者を中心として地域の大人がこれだけ熱心かつ大規模に協力して自転車交通安全教室を実施しておられることに、心より敬意を表したい。国内各地域で住民の皆さんのご協力を得てこうした教室が開催されることにより、冒頭に紹介したような痛ましい事故が無くなることを、切に願っている。

以 上